
2021年度決算 及び
2022年度業績見通し

説明資料

帝人株式会社

2022年5月12日

今回公表のポイント

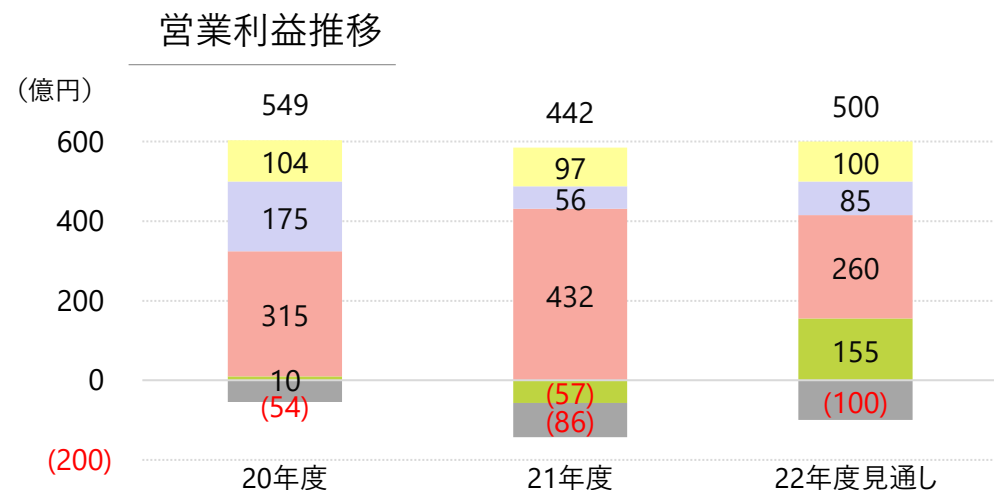
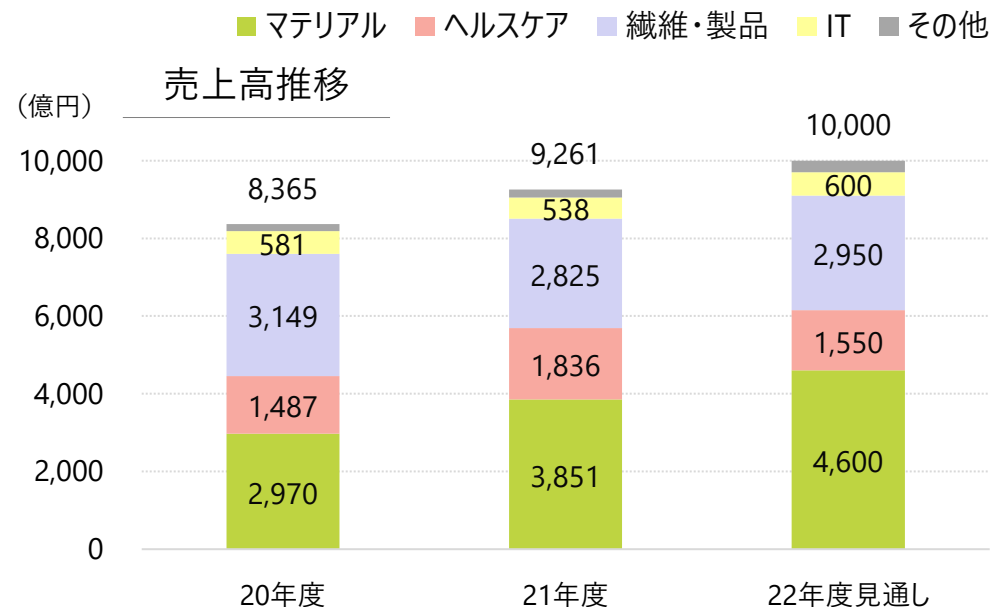
■2021年度実績（前年度対比）

- 経済回復に伴う販売増で売上高は前期対比10.7%増の9,261億円となったが、営業利益は19.5%減の442億円で着地
 - ヘルスケアは好調な販売で過去最高益の営業利益を達成し、繊維・製品の医療用ガウンの官需収束影響をほぼオフセット
 - マテリアルは複合成形材料・アラミドの原燃料価格高騰影響やアラミドの工場停電による生産休止影響等あり。販売価格改定を進めたものの営業赤字化
- 当期利益は前期の赤字から232億円の黒字に回復

■2022年度業績見通し（前年度対比）

- 売上高は8.0%増の1兆円、営業利益は13.1%増の500億円を見込む
 - ヘルスケアでの主要医薬品「フェブリク」の後発品参入影響が見込まれる一方、マテリアルでの堅調な需要継続および生産能力増強の投資効果が発現
- 当期利益は20.9%増の280億円の見込み
- 年間配当見通しは前年度並みの55円

※ロシアによるウクライナ侵攻や中国ロックダウンが長期継続する場合には業績に影響を与える可能性あり



当社の主要ターゲット市場の前提（2021年度～2022年度）

需要は全般的に堅調な状況が継続する見通し

事業	市場	主な地域	2021年度実績	2022年度見通し	
マテリアル	アラミド	自動車	欧州 米国	•半導体不足の影響はあるも、タイヤ・ブレーキ・ホースの需要は大きく伸長	•引き続き需要は堅調に推移
		産業資材	欧州 米国	•光ファイバー用途をはじめ、19年レベルに回復。需要は高水準で安定	•引き続き需要は堅調に推移
		防弾・防護	欧州 米国	•防弾は高強力ポリエチレン製への置き換えの動きがあるも、防弾・防護とも需要は堅調	•引き続き需要は堅調に推移
	樹脂	事務機	アジア	•コロナ影響に加え、半導体不足もあり、事務機メーカーの稼働は減少	•半導体不足による顧客稼働減は徐々に正常化
		自動車	日本、中国 アジア	•半導体不足の影響を受け、顧客の稼働は減少	•半導体不足による顧客稼働減は徐々に正常化
	炭素繊維	航空機	欧州 米国	•ワクチン接種が進んだ欧米では国内線を中心に回復傾向 •国際線の回復は国内線に比して限定的 •貨物輸送需要は堅調	•国内線は回復傾向が継続 •国際線は旅客需要回復は限定的に留まると想定
複合成形	自動車	米国、欧州 中国	•半導体不足の影響を受け、OEMでの生産制約が継続	•需要堅調な中、半導体不足によるOEMでの生産制約は徐々に解消	

- 見通しに織り込み済み：足元の天然ガス・原材料価格高騰が年度にわたって継続
- 見通しに未織り込み：ロシアによるウクライナ侵攻が長期継続した場合のさらなる天然ガス・原材料価格高騰、半導体不足影響
中国ロックダウンが長期継続した場合のさらなるサプライチェーンの混乱、自社・顧客製造拠点の稼働停止

当社の主要ターゲット市場の前提（2021年度～2022年度）

事業	市場	主な地域	2021年度実績	2022年度見通し
ヘルスケア	医薬品	日本	• 痛風・高尿酸血症薬市場は拡大継続	• 痛風・高尿酸血症患者数は拡大基調だが、後発品参入により市場規模は縮小
			• 糖尿病薬市場は微増も、厳しい競争環境が継続 • COVID-19影響により病院では訪問規制が継続し、e-プロモーション強化が継続	
	在宅医療		• 在宅酸素療法（HOT）市場では、入院抑制により在宅療養へのシフトが継続 • 在宅持続陽圧呼吸療法（CPAP）市場は拡大継続、検査数は緩やかな回復基調継続	
繊維・製品	衣料繊維	欧米・中国 日本	• 欧米・中国では消費が回復 • 国内はCOVID-19影響により市況が低迷、回復局面でも変異株の感染拡大により足踏み	• COVID-19変異株の感染拡大状況に注視が必要
	産業資材	日本 中国	• 自動車用途は回復基調であるが、半導体不足影響あり	• 半導体不足による顧客稼働減は徐々に正常化
	医療用防護具（ガウン等）	日本	• 官需は収束	—
IT	IT	日本	• 電子コミックにおける海賊版サイトの影響が20年度4Q以降年間を通じて継続も、市場の成長は継続	• 海賊版サイトの影響は残るものの、市場の成長は継続

- 見通しに織り込み済み：足元の天然ガス・原材料価格高騰が年度にわたって継続
- 見通しに未織り込み：ロシアによるウクライナ侵攻が長期継続した場合のさらなる天然ガス・原材料価格高騰、半導体不足影響
中国ロックダウンが長期継続した場合のさらなるサプライチェーンの混乱、自社・顧客製造拠点の稼働停止

- | | | |
|----|--------------------|------|
| 1. | 2021年度決算 | P. 5 |
| 2. | 2022年度業績見通し | P.14 |
| 3. | 次期中計策定に向けた本年度の取り組み | P.23 |
| 4. | 参考資料 | P.29 |

見通しに関するご注意

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。当資料に含まれている医薬品、医療機器、再生医療等製品（開発中のものも含む）に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的とするものではありません。

本資料は2022年5月12日午前11時30分に公表した弊社決算に基づくものです。

1. 2021年度決算

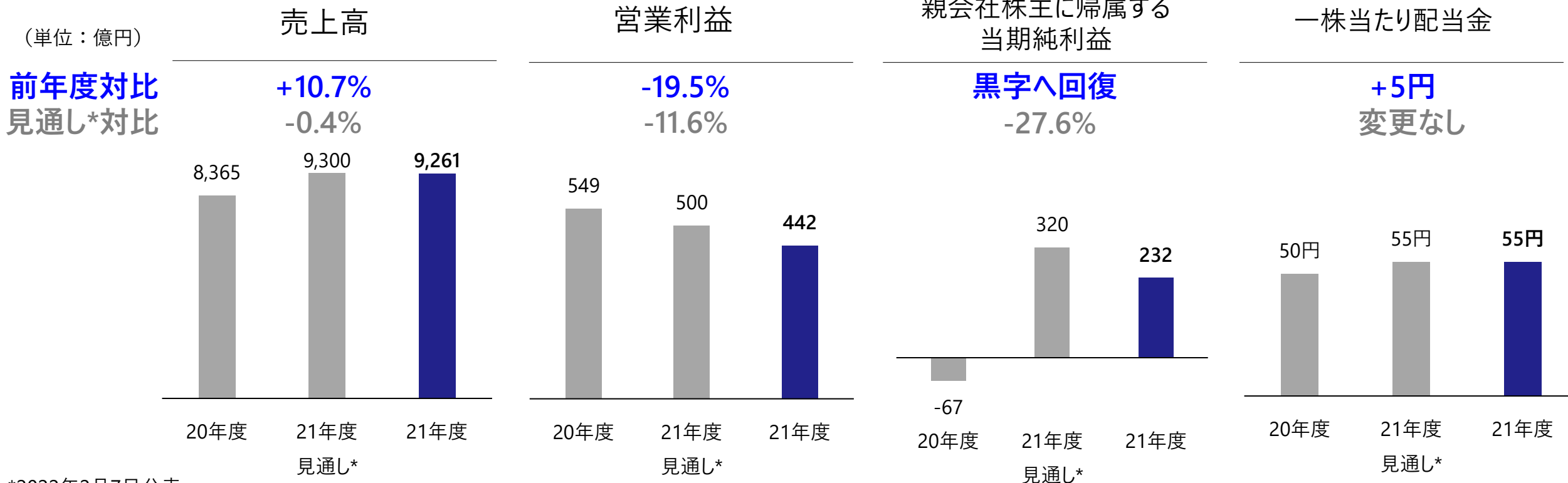
◆ 実績ハイライト [前年度対比]

【売上高】各セグメントでの経済回復に伴う販売増に加え、マテリアルでの原料価格高騰に対応した販売価格改定等もあり、10.7%増収。
COVID-19影響前の2019年度実績（8,537億円）を上回る結果

【営業利益】ヘルスケアにおいて糖尿病治療薬を含め販売が好調であったものの、繊維・製品で医療用ガウンの官需が収束。マテリアルにおいて2Qから顕在化した半導体不足の影響や原燃料価格・物流費の高騰および一部事業での生産休止影響等により、販売価格の改定を進めたものの19.5%減益

【当期純利益】前年度の炭素繊維を中心とした多額の減損損失計上による赤字から、黒字へ回復

(単位：億円)



*2022年2月7日公表

◆ 実績サマリー [前年度対比]

	(億円)				
	19年度	20年度	21年度	前期差異	増減率
売上高	8,537	8,365	9,261	+895	+10.7%
営業利益	562	549	442	-107	-19.5%
営業外損益	-19	-13	55	+68	-
経常利益	543	537	497	-40	-7.4%
特別損益	-128	-443	-56	+387	-
税金等調整前 当期純利益	416	94	441	+347	+371.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	253	-67	232	+298	-
ROE ^{*1}	6.3%	-1.7%	5.5%	+7.1%	-
営業利益ROIC ^{*2}	8.7%	8.6%	5.5% ^{*3}	-3.1%	-
EBITDA ^{*4}	1,072	1,068	1,130	+63	+5.9%

*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷期首・期末平均自己資本」にて算出

2 「営業利益÷期首・期末平均投下資本」にて算出

(*投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金)

*3 期首の投下資本は糖尿病薬販売権等承継による増加を含めて算出

	(億円)				
	19年度	20年度	21年度	前期差異	増減率
設備投資 ^{*5} (設備投資 調整後※)	686	603	2,008 (684)	+1,405	+232.9%
減価償却費 ^{*6}	510	518	688	+170	+32.7%
研究開発費	345	327	333	+6	+1.9%

※糖尿病薬販売権等承継による無形固定資産増（1,324億円）を除く

2021年度配当金（見通し^{*7}から変更なし）

中間 27.5円/株 期末 27.5円/株 年間 55円/株

(20年度：中間 25円/株 期末25円/株 年間50円/株)

◇為替・市況燃料価格

	20年度	21年度	
PL換算レート	円/米ドル	106	112
	円/ユーロ	124	131
原油(Dubai)価格 (米ドル/バレル)	44	78	
欧州天然ガス価格 (ユーロ/MWh)	11	69	

*4 「営業利益 + 減価償却費（のれんを含む）」にて算出

*5 設備投資には無形固定資産の取得を含む（M&Aは含まず）

*6 のれん償却含む

*7 2022年2月7日公表

◆ マテリアルセグメント [前年度対比]

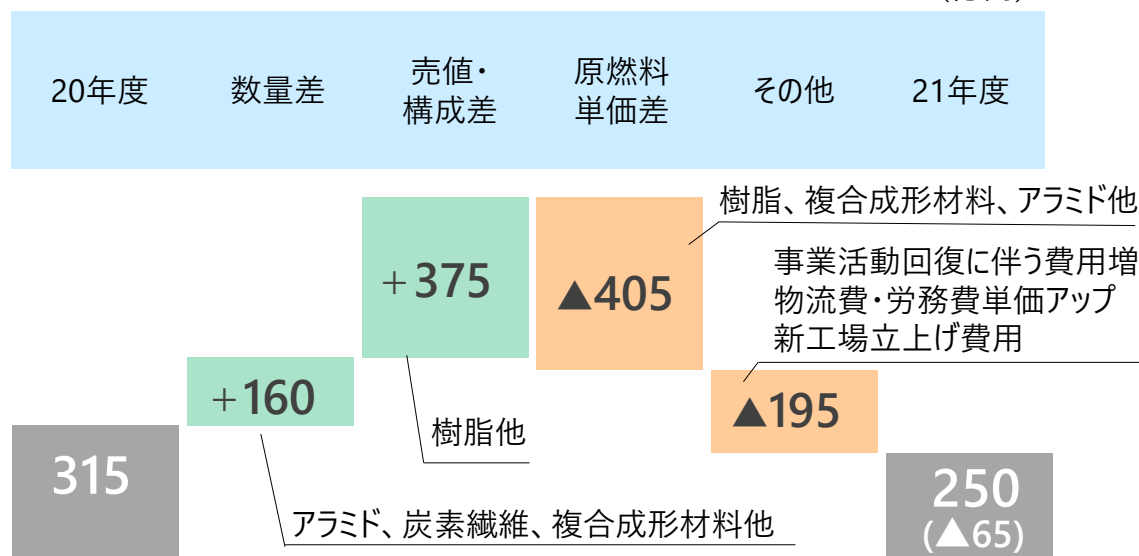
	19年度	20年度	21年度	前期差異	(参考) 21年度見通し*
売上高	3,275	2,970	3,851	+881	3,900
EBITDA	449	315	250	-65	305
減価償却費	290	306	307	+2	325
営業利益	158	10	-57	-67	-20
営業利益ROIC	5%	0%	-2%	-2%	-1%

(億円)

*2022年2月7日公表

< EBITDA増減内訳 >

(億円)



COVID-19影響からの需要回復により自動車用途や航空機用途を中心に販売量が増加。一方、半導体不足や原燃料価格・物流費高騰、一部事業の生産休止が利益に影響。各事業で販売価格改定を推進

■ アラミド繊維 (増収・減益)

- 自動車用途を中心に需要が回復し販売量が増加
- 大型定修とその期間延長および原料工場停電による生産減
- 天然ガス価格上昇がコストに影響し、販売価格改定を推進

■ 樹脂 (増収・増益)

- 半導体不足、COVID-19による顧客稼働減少を受け、販売量は前期対比若干減少
- 主原料であるBPA価格の高騰を受けて、販売価格改定を推進

■ 炭素繊維 (増収・増益)

- 航空機、風力発電、レクリエーションを含む用途全般において販売量が増加
- 主原料のANの需給逼迫による価格高騰を受けて、販売価格改定を推進
- 北米炭素繊維新工場の稼働開始、航空機向け中間材料の開発を継続

■ 複合成形材料 (増収・減益)

- 米国自動車市場においてSUV・ピックアップトラックにも半導体不足影響が波及し、OEMの生産停止影響あり
- 原材料価格高騰を受けて、一部顧客で販売価格改定を実現
- 労働需給逼迫状況は少しずつ改善の傾向も従業員確保が依然として課題

■ 電池部材 (増収・増益)

- セパレータがスマートフォンの新規顧客開拓や新規モデルへの採用で販売量増
- セパレータのコーティング技術供与先の販売進展に伴うライセンス対価受領開始

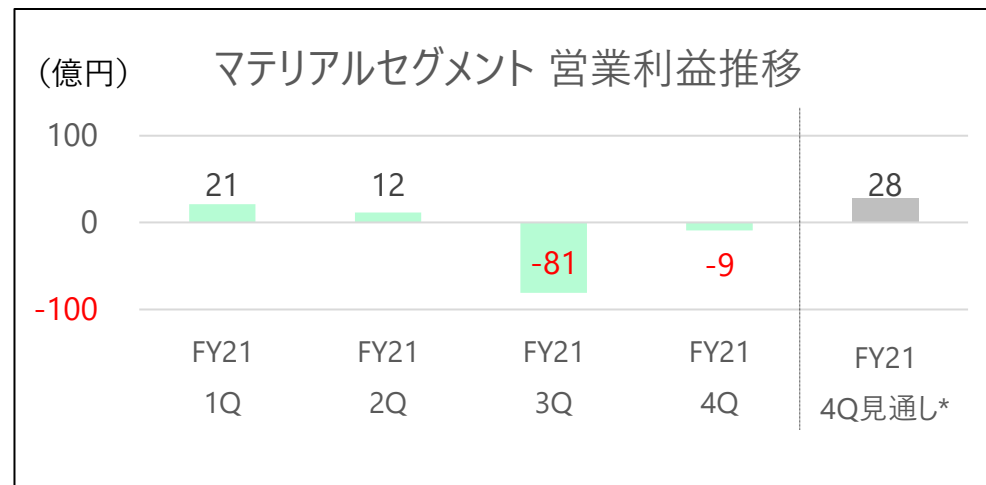
◆ マテリアルセグメント [営業利益四半期推移]

【3Q実績 対 4Q実績】

- 販売価格改定、収益改善施策の効果発現に加え、3Qでの工場停電等一時的な損益悪化要因の解消により3Q対比収益改善

【4Q見通し* 対 4Q実績】

- 複合成形材料が、原材料価格の想定以上の高騰や半導体不足によるOEMでの生産休止により稼働が低下したことにより減益



営業利益四半期差異

サブセグメント	3Q実績 対 4Q実績	4Q見通し* 対 4Q実績
アラミド	<p>➡</p> <ul style="list-style-type: none"> • 3Qで発生した原料工場の停電影響解消 • 燃料価格が更に高騰したが、販売価格改定効果も発現 	<p>➡</p> <ul style="list-style-type: none"> • 燃料価格水準は想定通り • 販売価格改定は想定通り実施
樹脂	<p>➡</p> <ul style="list-style-type: none"> • 原料価格の下落に伴い売値低下（想定以上にスプレッドを維持） • 期首繰越在庫差の影響が緩和 	<p>➡</p> <ul style="list-style-type: none"> • 想定通り堅調に推移
炭素繊維	<p>➡</p> <ul style="list-style-type: none"> • 堅調な需要を背景とした増販 • 北米新工場の量産開始 	<p>➡</p> <ul style="list-style-type: none"> • 想定通り堅調に推移
複合成形材料	<p>➡</p> <ul style="list-style-type: none"> • 販売価格改定及び収益改善施策の効果が発現 • 半導体不足はやや改善に兆しがみられたが影響は継続 • 原材料価格高騰は継続 	<p>➡</p> <ul style="list-style-type: none"> • 半導体不足によるOEMでの生産休止により稼働低下 • 原材料価格の想定以上の高騰 • 販売価格改定効果は概ね想定通りに発現

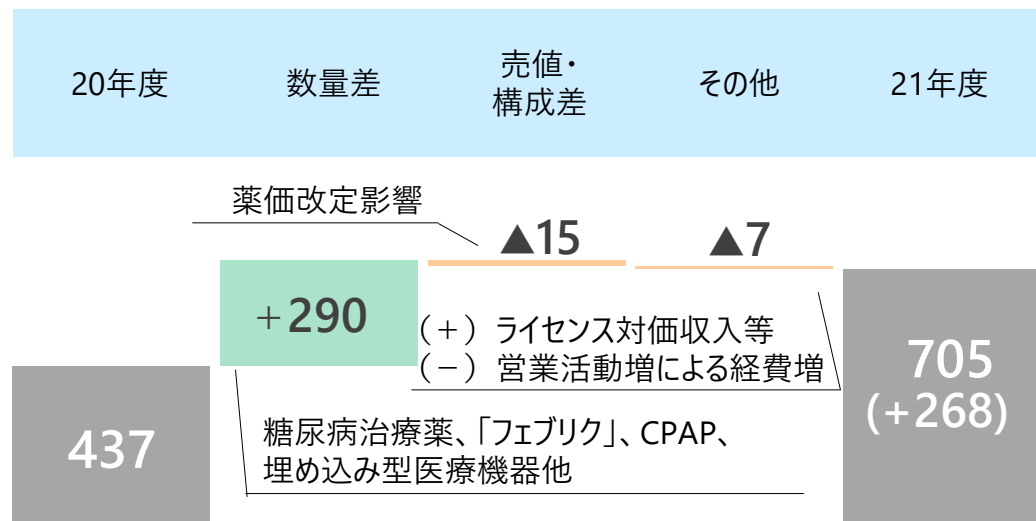
◆ ヘルスケアセグメント [前年度対比]

	19年度	20年度	21年度	前期差異	(億円) (参考) 21年度見通し*
売上高	1,539	1,487	1,836	+349	1,850
EBITDA	446	437	705	+268	720
減価償却費	120	122	273	+152	275
営業利益	326	315	432	+116	445
営業利益ROIC	41%	41%	20%	-21%	20%

*2022年2月7日公表

< EBITDA増減内訳 >

(億円)



主力製品である「フェブリク」の販売や在宅医療機器のレンタルは堅調。販売承継した糖尿病治療薬も順調に推移。ライセンス対価収入あり。これらの効果により過去最高の営業利益を達成

■ 医薬品

- 2型糖尿病治療剤 4 剤の販売が順調に推移
- 「フェブリク*1」や「ソマチュリン*2」の販売量が順調に拡大
- 2021年6月に下肢痙縮の効能追加承認を取得した「ゼオマイン*3」の販売量が堅調に拡大
- 2021年12月 米国メルク社よりアルツハイマー病治療薬候補の臨床試験開始に伴うライセンス対価受領

■ 在宅医療

- HOT：COVID-19向け病床確保のための入院抑制・在宅療養へのシフトが継続し、レンタル台数が伸長（前年度末対比約3%増）
- CPAP：検査数は緩やかな回復基調にあり、レンタル台数増加が継続（前年度末対比約8%増）

■ ヘルスケア新事業

- 人工関節・吸収性骨接合材等の埋め込み型医療機器事業において、手術数の回復傾向に加え、新製品等が順調に伸長。ただし、地域包括ケア等の新規事業の先行費用の影響もあり、前年度対比増収・減益

*1 高尿酸血症・痛風治療剤

*2 先端巨大症・下垂体性巨人症/神経内分泌腫瘍/膵・消化管神経内分泌腫瘍治療剤。ソマチュリン®/Somatuline®は、Ipsen Pharma（仏）の登録商標です

*3 上肢・下肢痙縮治療剤

◆ 繊維・製品セグメント [前年度対比]

(億円)

	19年度	20年度	21年度	前期差異	(参考) 21年度見通し*1
売上高	3,063	3,149	2,825	-325	2,800*2
EBITDA	124	239	121	-118	125
減価償却費	70	64	65	+1	65
営業利益	54	175	56	-119	60
営業利益ROIC	4%	14%	4%	-9%	5%

◆ ITセグメント [前年度対比]

(億円)

	19年度	20年度	21年度	前期差異	(参考) 21年度見通し*1
売上高	486	581	538	-43	550
EBITDA	87	113	108	-5	110
減価償却費	8	9	11	+2	15
営業利益	78	104	97	-7	95
営業利益ROIC	49%	66%	61%	-5%	65%

■ 繊維・製品セグメント

- 産業資材分野：自動車関連部材、電子部品向けの化成品、水処理フィルター向けポリエステル短繊維は好調。2Q以降半導体不足影響あり
- 衣料繊維分野：欧米・中国向け素材・製品販売や重衣料の国内販売は回復傾向も、国内市況の低迷や海外工場のロックダウンや原燃料・物流費高騰あり。販売価格改定進めるも、全般的に苦戦
- 医療用ガウンの官需は収束
- 事業の選択と集中による基礎収益力の底上げや、コロナ禍に対応したデジタルツールの活用等により販管費減少

■ ITセグメント

- ITサービス分野はCOVID-19影響が残るものの堅調に推移。ネットビジネス分野は、電子コミックサービスにおける前期の外出自粛による特需の収束や海賊版サイトの影響が継続したが、広告費最適化により利益を確保。なお、主に本社移転による販管費増のため全体では減益

■ その他 (株) ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング (J-TEC) 他

- 再生医療製品事業及び研究開発支援事業の売上は拡大した一方で、前親会社であった富士フィルム株式会社との受託開発取引停止に伴う再生医療受託事業の売上減少により、前年度対比減収
- 2021年6月に製造販売承認を取得した自家培養口腔粘膜上皮「オキュラル*1」が12月に保険収載され、販売を開始
- 2021年11月に他家（同種）培養表皮「Allo-JaCE03*2」の治験開始

*1 2022年2月7日公表

*2 日本基準における収益認識の新基準適用による減少を含む

*1 口腔粘膜上皮細胞を用いて角膜上皮幹細胞疲弊症を治療する、世界初の再生医療等製品

*2 深達性Ⅱ度熱傷の患者を対象

◆ 営業外損益 [前年度対比]

	(億円)		
	20年度	21年度	差異
受取利息	7	5	-2
受取配当金	13	12	-1
持分法による投資利益	25	56	+30 *1
デリバティブ評価益	23	65	+42
投資事業組合運用益	-	1	+1
その他	15	13	-2
営業外収益 計	83	151	+68
支払利息	28	33	+4
為替差損	36	38	+2
デリバティブ評価損	-	3	+3
投資事業組合運用損	10	0	-10
その他	21	22	+1
営業外費用 計	96	96	+1
営業外損益 計	-13	55	+68

◆ 特別損益 [前年度対比]

	(億円)		
	20年度	21年度	差異
固定資産売却益	18	1	-18
投資有価証券売却益	26	57	+31
段階取得に係る差益	20	-	-20
減損損失戻入益	-	11	+11
その他	0	8	+8
特別利益 計	65	77	+12
固定資産除売却損	22	21	-1
投資有価証券評価損	10	5	-5
減損損失	441 *2	89 *3	-352
その他	35	18	-17
特別損失 計	508	133	-374
特別損益 計	-443	-56	+387

*1 アラミドペーパー合併の業績好調等により持分法による投資利益増加

*2 炭素繊維事業の固定資産に関わる減損損失392億円他

*3 複合成形材料事業（中国）の固定資産等に関わる減損損失50億円他

◆ 財政状態 [前年度末対比]

	(億円)			内 為替 換算影響
	21年 3月末	22年 3月末	差異	
総資産	10,411	12,076	+1,665	+368
負債	6,108	7,428	+1,320	+168
(内 有利子負債)	3,800	4,852	+1,051	+111
純資産	4,304	4,648	+344	+200
D/Eレシオ	0.94	1.10	+0.17	-
D/Eレシオ (資本性調整後) ^{*1}	-	0.97	-	-

◇ 総資産 増減内訳

	(億円)		
	21年 3月末	22年 3月末	差異
現預金等	1,702	1,345	-357
売上債権	1,810	1,913	+103
棚卸資産	1,410	1,646	+236
固定資産	3,613	5,063	+1,449 ^{*2}
投資有価証券	848	850	+2
その他	1,027	1,259	+232
総資産 計	10,411	12,076	+1,665

◆ キャッシュ・フローの状況 [前年度対比]

	(億円)		
	20年度	21年度	差異
営業活動	1,077	897	-181
投資活動	-796	-1,984	-1,188 ^{*2}
フリー・キャッシュ・フロー	281	-1,087	-1,369
財務活動他	-180	730	+909
現金及び現金同等物増減	102	-358	-459

◇ BS換算レート

	21年	22年
	3月末	3月末
円/米ドル	111	122
円/ユーロ	130	137

*1 劣後債資本性調整後のD/Eレシオ (2021年7月21日 劣後債 600億円発行済)

*2 糖尿病薬販売権等承継 (無形固定資産増 (1,324億円)) 等

2. 2022年度業績見通し

◆ 通期業績見通しハイライト [前年度対比]

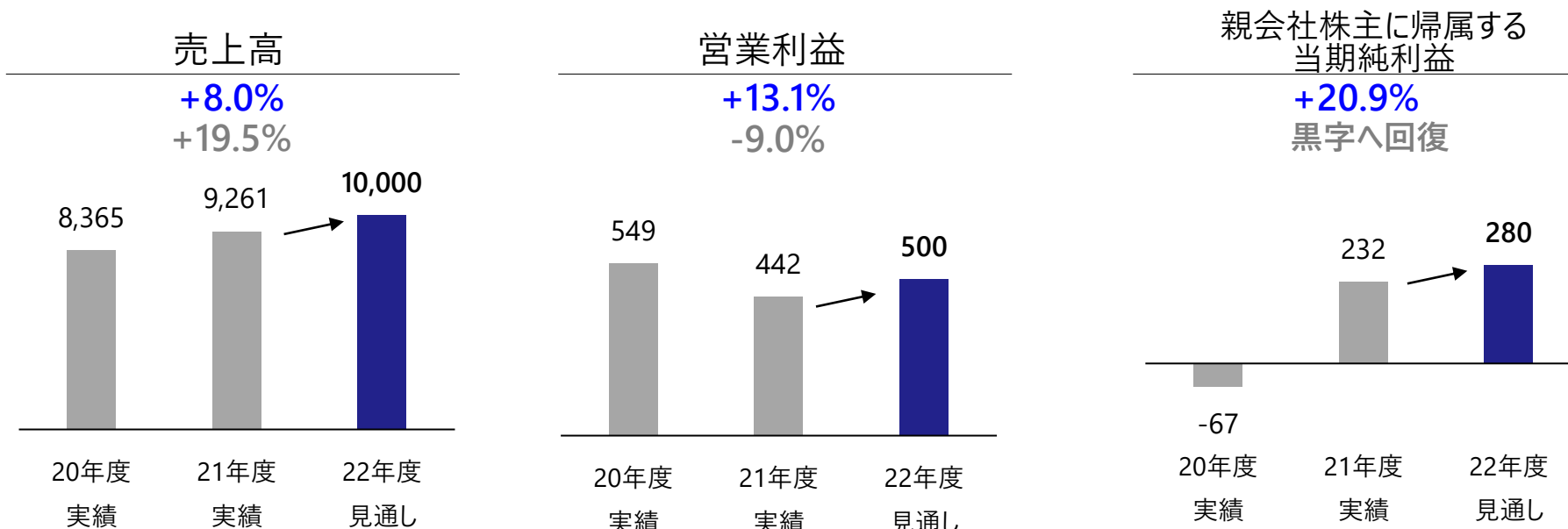
【売上高】マテリアルにおけるCOVID-19からの回復や各事業での生産能力増強、新工場稼働による販売数量の増加がヘルスケアの主力薬「フェブリク」の後発品参入による減少をカバーし、売上高は8.0%増の1兆円に到達する見通し

【営業利益】「フェブリク」の後発品参入によるヘルスケアでの減益を、マテリアルでの増販、販売価格改定およびコスト削減施策の発現によりカバーすること等で、全体として増益を見込む

- 見通しに織り込み済み：足元の天然ガス・原材料価格高騰が年度にわたって継続
- 見通しに未織り込み：ロシアによるウクライナ侵攻が長期継続した場合のさらなる天然ガス・原材料価格高騰、半導体不足影響
中国ロックダウンが長期継続した場合のさらなるサプライチェーンの混乱、自社・顧客製造拠点の稼働停止

(単位：億円)

前年度対比
2020年度対比



前提条件

		21年度	22年度 見通し
通期平均為替レート	円/米ドル	112	125
	円/ユーロ	131	135
原油(Dubai)価格 (米ドル/バレル)		78	100
欧州天然ガス価格 (ユーロ/MWh)		69	105

◆ 通期業績見通しサマリー [前年度対比、2020年度対比]

(億円)

	21年度 実績	22年度 見通し	差異	増減率	20年度 実績	20年度実績 との差異	増減率
売上高	9,261 ^{*8}	10,000 ^{*8}	+739	+8.0%	8,365	+1,635	+19.5%
営業利益	442	500	+58	+13.1%	549	-49	-9.0%
経常利益	497	520	+23	+4.6%	537	-17	-3.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	232	280	+48	+20.9%	-67	+347	-
ROE ^{*1}	5.5%	6%	+1%		-1.7%	+8%	
営業利益ROIC ^{*2}	5.5% ^{*9}	6%	+1%		8.6%	-2%	
EBITDA ^{*3}	1,130	1,250	+120		1,068	+182	
フリー・キャッシュ・フロー	-1,087 ^{*10}	300	+1,387		281	+19	
設備投資 ^{*4}	2,008 ^{*10}	700	-1,308		603	+97	
減価償却費 ^{*5}	688	750	+62		518	+232	
研究開発費	333	340	+7		327	+13	
D/Eレシオ ^{*6}	1.10	1.0	-0.1		0.94	+0.1	
D/Eレシオ（資本性調整後） ^{*7}	0.97	0.9	-0.1		-	-	

*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷期首・期末平均自己資本」にて算出

*2 「営業利益÷期首・期末平均投下資本」にて算出（*投下資本＝純資産＋有利子負債－現金及び預金）

*3 「営業利益＋減価償却費（のれんを含む）」にて算出 *4 設備投資には無形固定資産の取得を含む（M&Aを含まず）

*5 のれん償却含む *6 「有利子負債÷自己資本」にて算出（グロス表示）

*7 劣後債資本性調整後のD/Eレシオ（2021年7月21日 劣後債 600億円発行済）

*8 日本基準における収益認識の新基準適用による減少を含む

*9 期首の投下資本は糖尿病薬販売権等承継による増加を含めて算出

*10 糖尿病薬販売権等承継による無形固定資産増（1,324億円）を含む

◆ セグメント別 売上高・営業利益 [前年度対比]

(億円)






	21年度 実績	22年度 見通し	差異	増減率
売上高				
マテリアル	3,851	4,600	+749	+19.4%
ヘルスケア	1,836	1,550	-286 *	-15.6%
繊維・製品	2,825	2,950	+125	+4.4%
IT	538	600	+62	+11.6%
その他	212	300	+88 *	+41.8%
合計	9,261	10,000	+739	+8.0%

(億円)

	21年度 実績	22年度 見通し	差異	増減率
営業利益				
マテリアル	-57	155	+212	-
ヘルスケア	432	260	-172	-39.8%
繊維・製品	56	85	+29	+50.7%
IT	97	100	+3	+3.1%
その他	-21	-30	-9	-
消去又は全社	-64	-70	-6	-
合計	442	500	+58	+13.1%

営業利益見通しの方向感

前年度対比

全体		営業増益の見通し
-マテリアル		各事業での生産能力増強、新工場稼働による販売数量増 販売価格改定による収益改善
-ヘルスケア		主力医薬品「フェブリク」の後発品参入による販売量減影響
-繊維・製品		産業資材の自動車用途・衣料繊維はCOVID-19・海外工場ロックダウンからの回復での販売量増 販売価格改定による収益改善
-IT		売上増および本社移転費用減を見込むが、マーケティング強化によるコスト増あり

*「ヘルスケア」セグメント内の埋込型医療機器事業を2022年度より全社共通セグメントである「その他」へ区分変更。
2022年度見通しに反映。金額影響は売上高で約100億円、営業利益は僅少（P30を参照）

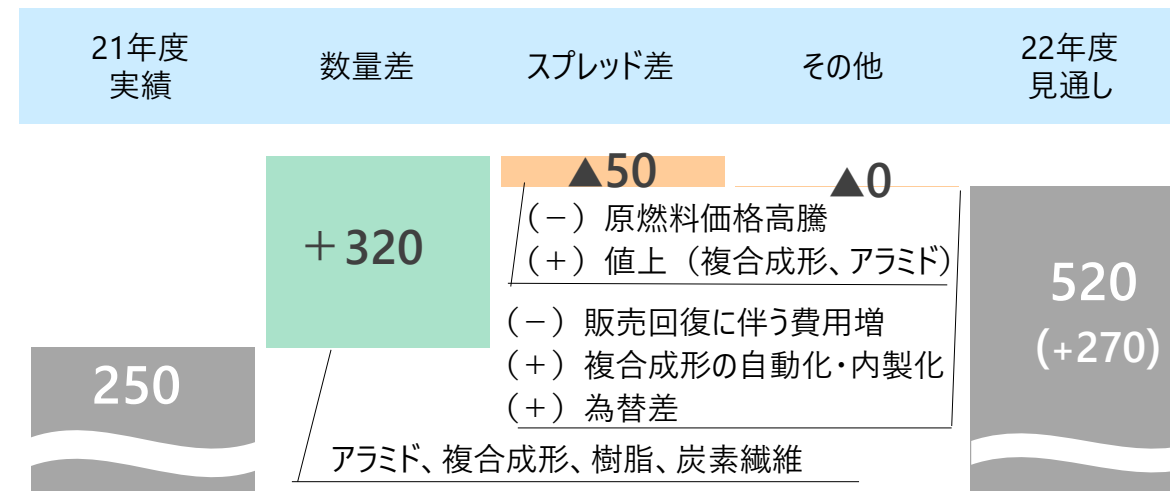
◆ マテリアルセグメント [前年度対比]

(億円)

	21年度 実績	22年度 見通し	差異
売上高			
高機能材料	2,735	3,000	+265
複合成形材料	1,116	1,600	+484
計	3,851	4,600	+749
EBITDA	250	520	+270
減価償却費	307	365	+58
営業利益	-57	155	+212
営業利益ROIC	-2%	4%	+6%

< EBITDA増減内訳 >

(億円)



営業利益見通しの方向感

サブセグメント	前年度対比
アラミド	<p>➡</p> <ul style="list-style-type: none"> 大型定修とその期間延長および原料工場停電による生産停止の影響解消 原燃料価格高騰が継続するも、販売価格改定を推進 オランダでの設備能力増強による販売数量増
樹脂	<p>➡</p> <ul style="list-style-type: none"> COVID-19感染蔓延、半導体不足、中国での電力不足影響の緩和による販売数量増および高付加価値化の進展 2022年度期首繰越在庫影響、物流費高騰影響
炭素繊維	<p>➡</p> <ul style="list-style-type: none"> 航空機需要の堅調な回復に伴う販売数量増加 北米新工場稼働による一般産業用途、レクリエーション用途の販売拡大
複合成形材料	<p>➡</p> <ul style="list-style-type: none"> 大型プログラム（テキサス新工場など）のフル発現による販売数量増加、半導体不足緩和によるOEM需要増 原材料価格高騰が継続するも、より広範なOEMに対する販売価格改定を見込む 成形工程の自動化、塗装ラインの内製化によるコストダウンの貢献幅拡大

◆ Teijin Automotive Technologies (US) 外部環境動向と収益改善施策の進捗状況

外部環境動向	2021年度実績	2022年度見通し
原材料価格高騰	期初より年度末まで高騰が継続	高止まりの状況が年度末まで継続の見通し
半導体不足	2Qから年度末まで影響が継続	年度末に向かって緩やかに正常化する見通し
米国労働需給逼迫	期初より年度末まで逼迫の状況が継続	年度前半に労働需給の逼迫が緩和する見通し
収益改善施策	2021年度実績	2022年度見通し
値上げ（原材料価格の転嫁）	4Qより中堅OEM中心に販売価格改定	大手OEMに対する販売価格改定
新プログラムの立ち上げ	4Qにテキサス新工場で大規模新プログラムを立ち上げ（立上コストもあり業績への貢献は限定的）	テキサス新工場の通期での高稼働化 新規大規模プログラムの立ち上げを計画
成形工程の自動化（必要人員の削減*、生産性向上）	4Qにテキサス工場および主要工場で成形工程自動化設備導入	成形工程自動化設備導入の横展開加速 （年間約10億円のコスト削減効果を想定）
塗装工程の内製化（外注比コスト削減、品質・生産性向上）	プロジェクトが数か月遅延し効果発現せず	1Qで主要工場の塗装ラインの内製化完了 （年間約10億円のコスト削減効果を想定）

*成形工程直接人員を最大5割削減可能と想定

• TAT-USののれん等償却後黒字化時期について

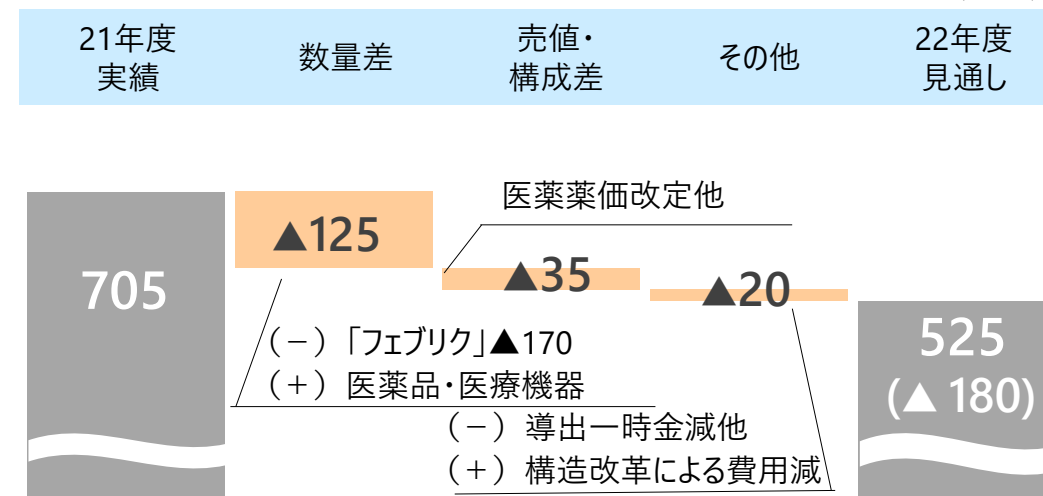
TAT-USののれん等償却後黒字化については、半導体不足や原材料高騰・労務費高止まり影響等が当初想定よりも長期化しているため、目標として掲げていた現行中計最終年度（2022年度）での達成が困難な状況。今後、大型新プログラムの立ち上げ、販売価格改定、成形工程の自動化・塗装ラインの内製化等による収益性改善を図り、新たな目標として2024年度までの達成を目指すこととする

◆ ヘルスケアセグメント [前年度対比]

	(億円)		
	21年度 実績	22年度 見通し	差異
売上高	1,836	1,550	-286*
EBITDA	705	525	-180
減価償却費	273	265	-8
営業利益	432	260	-172
営業利益ROIC	20%	13%	-7%

< EBITDA増減内訳 >

(億円)



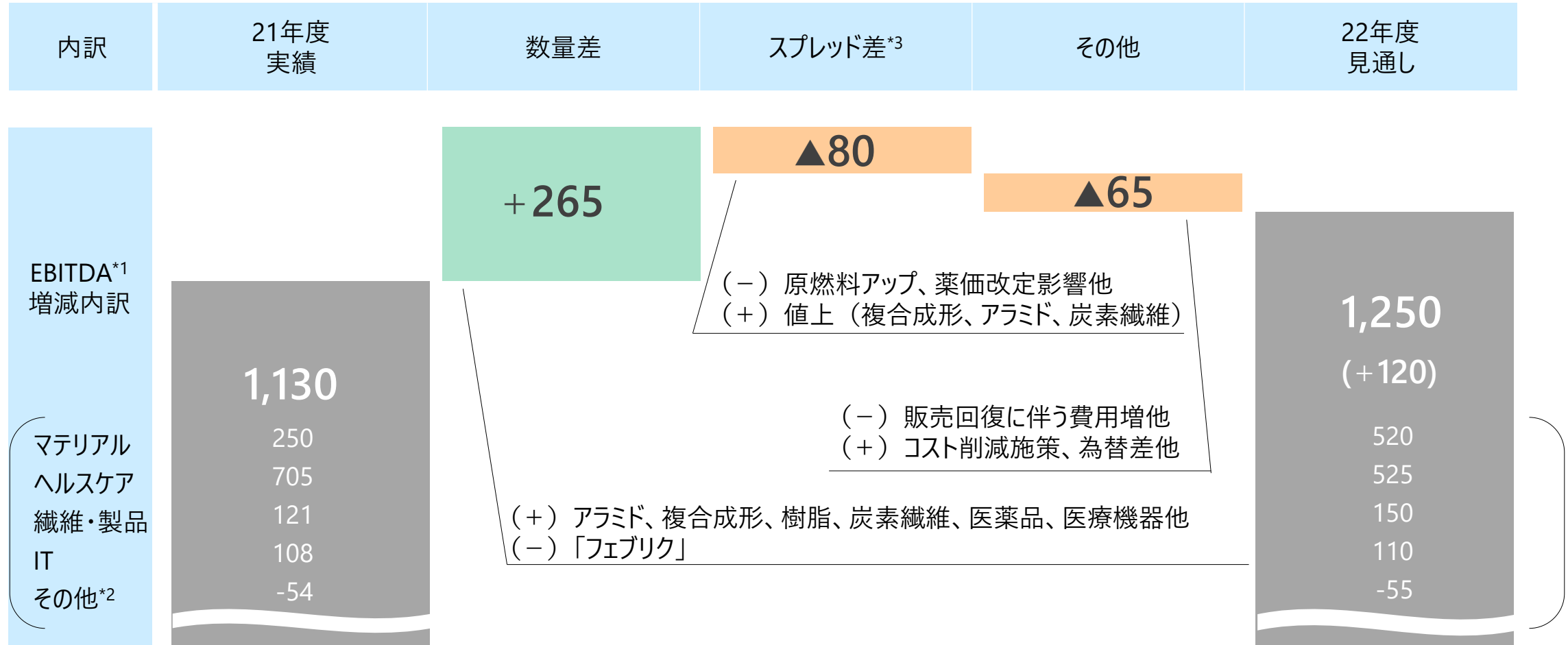
*「ヘルスケア」セグメント内の埋込型医療機器事業を2022年度より全社共通セグメントである「その他」へ区分変更。2022年度見通しに反映。金額影響は売上高で約100億円、営業利益は僅少

営業利益見通しの方向感	
サブセグメント	前年度対比
医薬・在宅医療	<ul style="list-style-type: none"> 主力薬「フェブリク」の後発品参入による販売量減、薬価改定影響 既存薬・医療機器の販売量・レンタル台数増 医薬・在宅医療の統合推進
新事業	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケアの基盤構築継続 機能性食品素材の製品ラインナップ拡充

2022年度業績見通し EBITDA増減要因（前年度対比）

- ヘルスケアの「フェブリク」の後発品参入影響はあるものの、マテリアルでの増販、販売価格改定およびコスト削減施策の発現等により、EBITDAは増加を見込む

(億円)

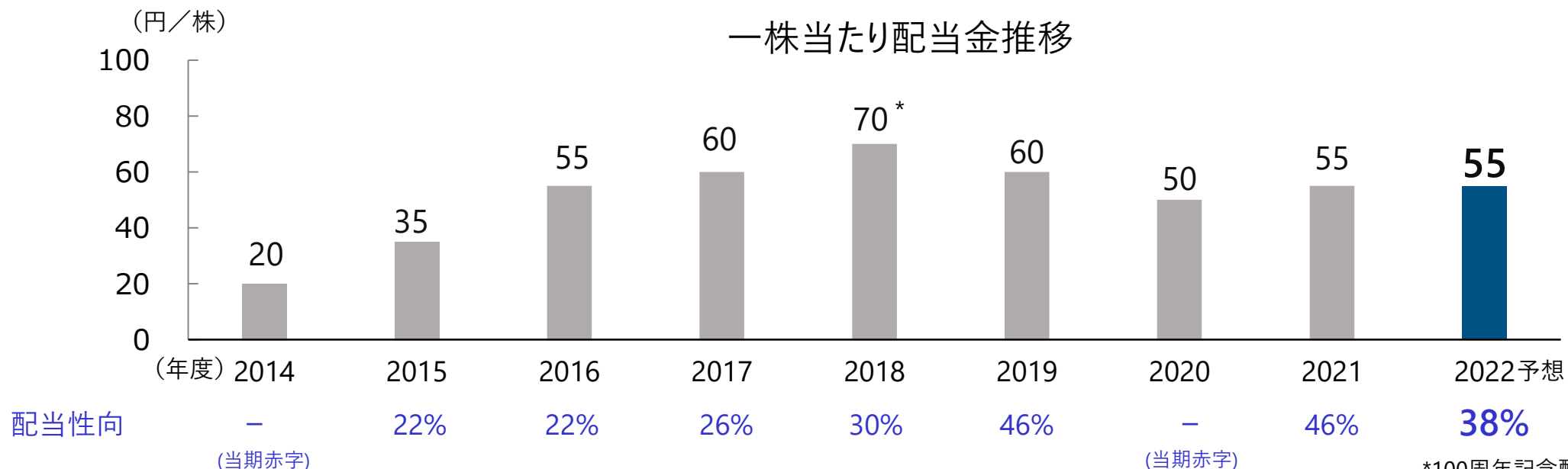


*1 「営業利益 + 減価償却費（のれんを含む）」にて算出 *2 その他は「その他」および「消去又は全社」の合計としている *3 売値・構成差 + 原燃料単価差

◆ 株主還元方針

- キャッシュ・フローは、「財務体質の健全性」（D/Eレシオ0.9が目安）を維持しながら、「将来の成長に向けての投資」に優先的に配分
- 「安定的・継続的な配当」にも配慮し、状況に応じて自己株式取得等も機動的に実施
- 「業績に連動した配当」により利益成長に則した増配を目指し、中期的な配当性向は、「当期純利益の30%」目安

「安定的・継続的な配当」を重視し、2022年度予想は前年度と同額の55円/株を予定



*100周年記念配当10円/株を含む

注) 2016年10月1日をもって普通株式5株を1株に併合。配当金は株式併合の影響を踏まえて換算

3. 次期中計策定に向けた本年度の取り組み

次期中計策定に向けた本年度の取り組み

「2020-2022 中期経営計画」

2030年に向け持続的成長していくための「成長基盤確立期」と位置付け



2020-2021年度の取り組み総括

2020年度（中計初年度）

- 上期を中心にマテリアルにおいてCOVID-19影響を大きく受け、炭素繊維事業を中心に収益計画に変更
- 中期の方向性を不変とし、成長基盤確立期としての投資を実行

2021年度（中計2年目）

- マテリアル及び繊維・製品事業では、市場はCOVID-19から回復するも原燃料価格・物流費高騰や半導体不足影響あり
- ヘルスケアは最高益計上、IT事業は堅調を維持
- 長期ビジョン達成を見据え、成長投資を継続

2年間の主な成果（成長基盤の確立）

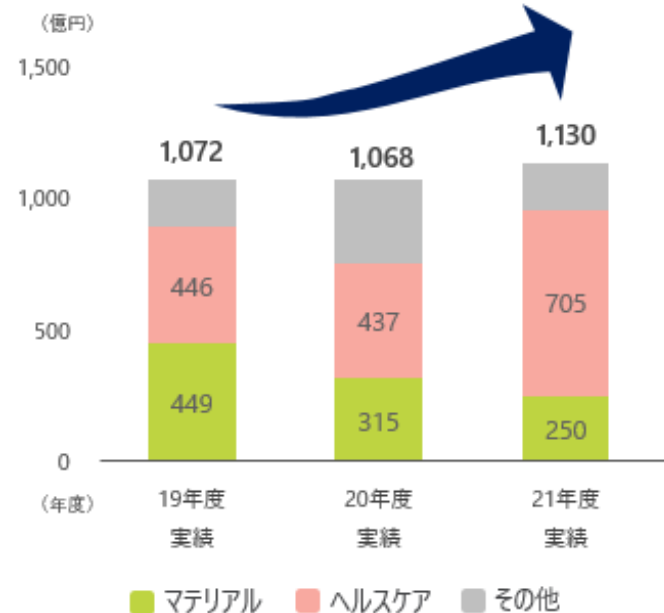
- アラミド繊維生産能力増強、北米炭素繊維新工場稼働
- 複合成形材料の新規プログラム獲得
- ヘルスケアの機能本部制移行、地域包括ケアの取り組み推進
- ヘルスケアの糖尿病治療剤販売承継
- 技術融合領域としての再生医療分野参入（J-TEC子会社化）

顕在化したリスク

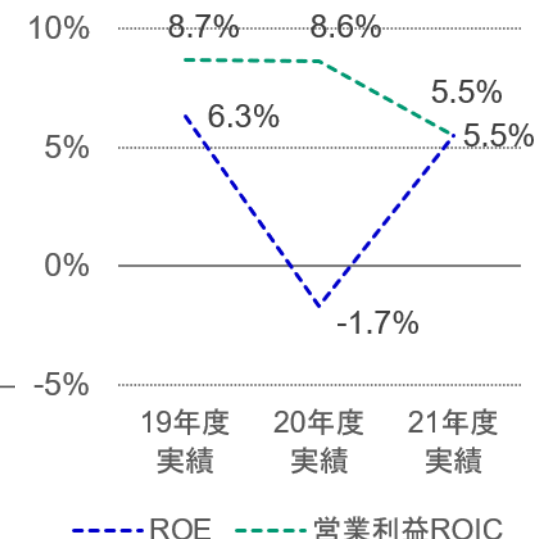
- COVID-19の感染拡大と蔓延
- 世界的な材料不足・燃料高
- ロシアによるウクライナ侵攻

当社業績へも
影響

EBITDA推移



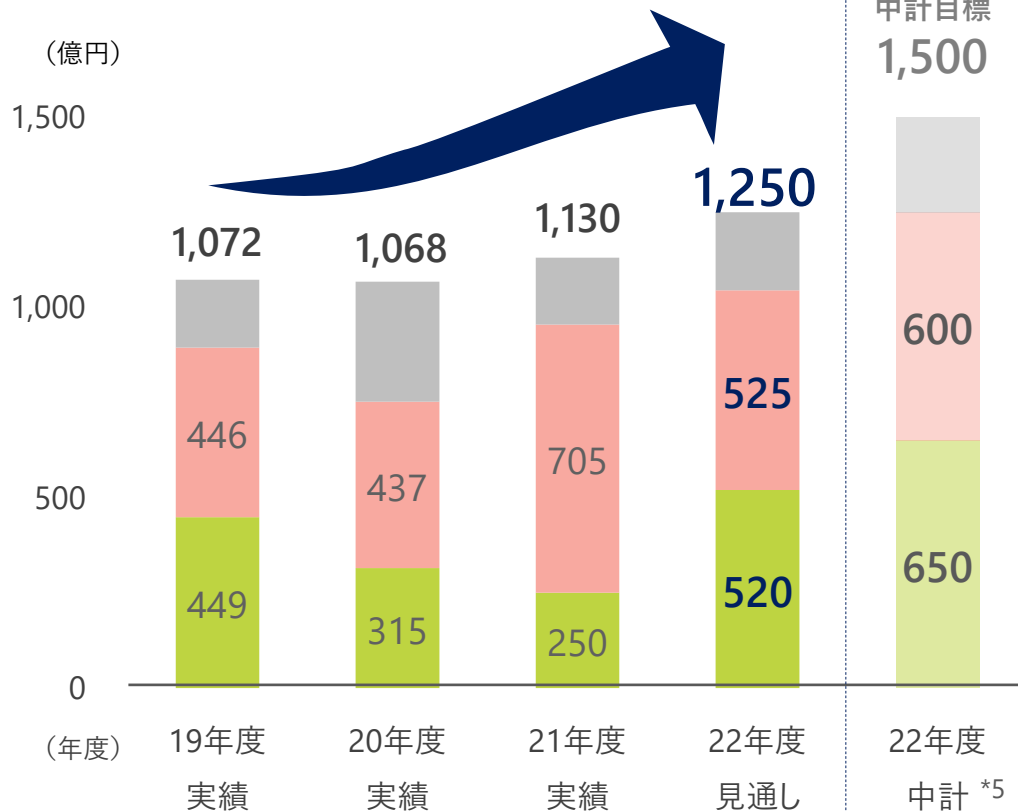
ROE / 営業利益ROIC推移



2022年度見通し経営指標 対中期経営計画

外部環境の変化による収益性悪化等で目標とのGAPが顕在化

EBITDA*1



ヘルスケア 22年度見通し **525**億円 (中計*5 600億円)

対中計GAP：武田薬品からの糖尿病治療薬販売承継が大きく寄与する一方で、M&Aの実施を含む新事業の収益化遅れ等あり

マテリアル 22年度見通し **520**億円 (中計*5 650億円)

対中計GAP：複合成形材料の収益性改善遅れやアラミドの期首の販売可能在庫不足や天然ガス価格高騰影響等

ROE*2

	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度見通し	22年度中計目標
ROE	6.3%	-1.7%	5.5%	6%	10%以上

営業利益ROIC*3

	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度見通し	22年度中計目標
営業利益ROIC	8.7%	8.6%	5.5%*4	6%	8%以上

*1 「営業利益＋減価償却費（のれんを含む）」にて算出

*2 「親会社株主に帰属する当期純利益÷期首・期末平均自己資本」にて算出

3 「営業利益÷期首・期末平均投下資本」にて算出 *投下資本＝純資産＋有利子負債－現金及び預金

*4 21年度期首の投下資本に糖尿病薬販売権等承継による増加を含めて算出

*5 2021年5月にセグメント内訳の見直し実施

*6 繊維・製品、IT、その他および消去又は全社の合計

2022年度における施策

「成長基盤の確立」に向けて、全精力をつぎ込む

同時に、最優先課題である収益性改善のための施策に注力し、
顕在化した課題やリスクにひとつひとつ取り組む

- Strategic Focus（将来の収益源育成）領域の戦略投資は厳選して実施
- Profitable Growth（利益ある成長）領域の収益基盤強化を継続
- 構造改革の検討および実行
 - 複合成形材料事業分野の各施策の遂行とエリア戦略の見直し
：地域別優先順位に基づく厳選した資源投入
 - 医薬・在宅医療事業分野の効率的運営体制の追求
- サステナビリティ経営のさらなる強化・推進

次期中期経営計画策定に向けて

変革に向けた礎を築くべく
以下の3点をスピード感を持って実行する

1. ファクトベースで結果をレビュー

これまでの成果・結果についてファクトベースでの総括・検証を実施

2. 事業ポートフォリオにおける優先順位を明確化

各事業のポートフォリオ上の位置づけ・資源投入配分方針の明確化を図る

3. イノベーション創出体制の構築

イノベーション創出を重点課題と捉え、組織変革や企業文化の醸成を推進

4. 参考資料

開示セグメントの変更

帝人ナカシマメディカル(株)、帝人メディカルテクノロジー(株)を中心に進めている埋込型医療機器事業について、全社的・長期的視点でイノベーションを生み出していく新規事業と位置づけ、育成・強化を図るため、セグメント区分を変更

～2021年度

セグメント	事業
マテリアル	高機能材料
	複合成形材料
ヘルスケア	医薬品・在宅医療
	ヘルスケア新事業
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid red; padding: 2px;">埋込型医療機器</div> <div>機能性食品素材他</div> </div>
繊維・製品	繊維・製品
IT	IT
その他	その他 (J-TEC含む)

2022年度～

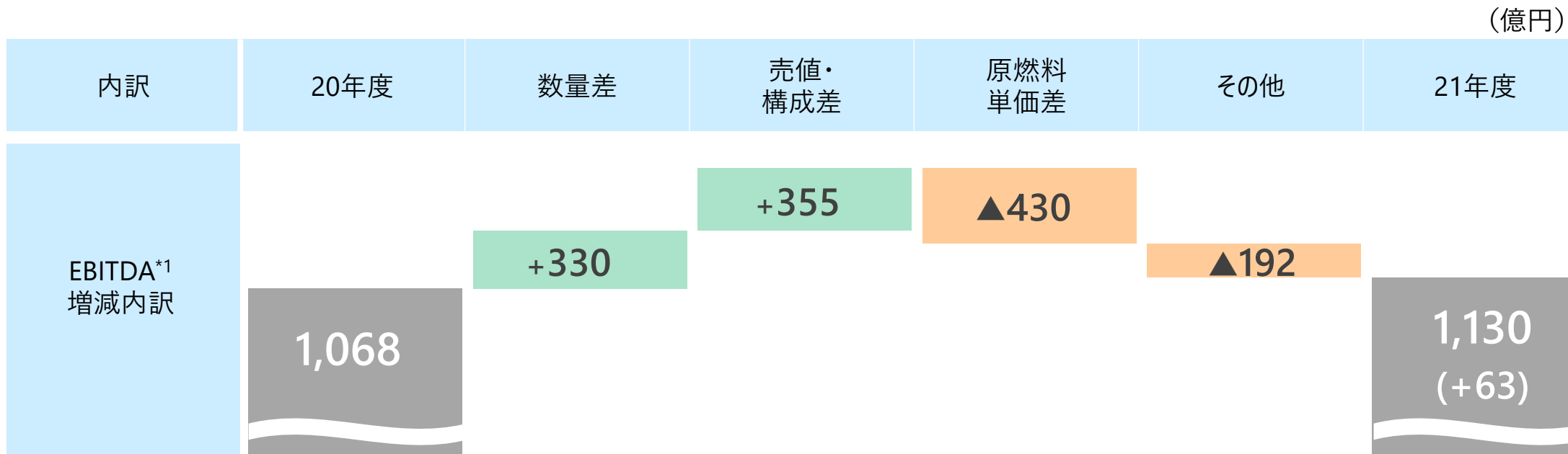
事業	セグメント
高機能材料	マテリアル
複合成形材料	
医薬品・在宅医療	ヘルスケア
ヘルスケア新事業	
機能性食品素材他	
繊維・製品	繊維・製品
IT	IT
その他 (J-TEC含む)	その他
埋込型医療機器	

定常的な損益影響要因

セグメント	主な特徴
マテリアル	<ul style="list-style-type: none">アラミドは2021年度1Qに大型定修（3年に1度）樹脂は毎年2Q、3Qに定修
ヘルスケア	<ul style="list-style-type: none">4Qに経費集中傾向
繊維・製品	<ul style="list-style-type: none">衣料関係は3Qが秋冬物・4Qが春物シーズン
IT	<ul style="list-style-type: none">2Q、4Qはシステム検収時期で納入増

◆ EBITDA*1増減 (連結合計) [前年度対比]

	(億円)				(参考) 21年度見通し*2
	19年度	20年度	21年度	前期差異	
売上高	8,537	8,365	9,261	+895	9,300
EBITDA*1	1,072	1,068	1,130	+63	1,200
減価償却費	510	518	688	+170	700
営業利益	562	549	442	-107	500
営業利益ROIC	8.7%	8.6%	5.5%	-3.1%	6%



*1 「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)」にて算出 *2 2022年2月7日公表

◆ セグメント別 売上高・営業利益 四半期推移 [前年度対比 (累計)]

	19年度					20年度					21年度					(億円)	
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	前年差異	増減率
売上高																	
高機能材料	633	624	556	550	2,364	438	476	544	647	2,104	693	703	663	675	2,735	+631	+30.0%
複合成形材料	228	231	229	224	912	101	248	252	264	866	264	248	274	330	1,116	+250	+28.9%
マテリアル 計	861	854	786	774	3,275	539	724	796	910	2,970	958	950	937	1,006	3,851	+881	+29.7%
ヘルスケア	398	391	403	347	1,539	362	369	388	368	1,487	459	449	488	440	1,836	+349	+23.5%
繊維・製品	738	804	772	749	3,063	716	865	790	778	3,149	655	680	734	756	2,825	-325	-10.3%
IT	109	122	112	143	486	135	150	137	158	581	135	137	126	139	538	-43	-7.5%
その他	40	42	41	50	174	39	42	45	53	178	52	58	51	50	212	+33	+18.6%
合計	2,146	2,214	2,114	2,063	8,537	1,791	2,150	2,156	2,268	8,365	2,259	2,275	2,336	2,390	9,261	+895	+10.7%
営業利益																	
マテリアル	56	46	29	28	158	-14	9	2	13	10	21	12	-81	-9	-57	-67	-
ヘルスケア	105	89	97	34	326	87	78	93	57	315	132	108	135	57	432	+116	+37.0%
繊維・製品	10	18	14	12	54	51	76	36	12	175	20	16	9	11	56	-119	-67.8%
IT	13	23	19	23	78	20	27	21	35	104	21	27	21	29	97	-7	-6.7%
その他	-0	3	-1	2	3	-4	1	2	-1	-2	-3	-6	-3	-9	-21	-19	-
消去又は全社	-14	-11	-13	-19	-58	-14	-6	-13	-19	-52	-19	-13	-14	-19	-64	-12	-
合計	170	168	145	80	562	126	185	142	97	549	173	142	67	60	442	-107	-19.5%

◆ セグメント別 売上高・営業利益 四半期推移 [前年同四半期対比 及び 直前四半期対比]

	19年度				20年度				21年度				差異	差異
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	21/4Q -20/4Q	21/4Q -21/3Q
売上高														
高機能材料	633	624	556	550	438	476	544	647	693	703	663	675	+29	+12
複合成形材料	228	231	229	224	101	248	252	264	264	248	274	330	+66	+56
マテリアル 計	861	854	786	774	539	724	796	910	958	950	937	1,006	+95	+68
ヘルスケア	398	391	403	347	362	369	388	368	459	449	488	440	+72	-48
繊維・製品	738	804	772	749	716	865	790	778	655	680	734	756	-23	+22
IT	109	122	112	143	135	150	137	158	135	137	126	139	-19	+13
その他	40	42	41	50	39	42	45	53	52	58	51	50	-3	-1
合計	2,146	2,214	2,114	2,063	1,791	2,150	2,156	2,268	2,259	2,275	2,336	2,390	+123	+54
営業利益														
マテリアル	56	46	29	28	-14	9	2	13	21	12	-81	-9	-22	+72
ヘルスケア	105	89	97	34	87	78	93	57	132	108	135	57	+0	-77
繊維・製品	10	18	14	12	51	76	36	12	20	16	9	11	-1	+2
IT	13	23	19	23	20	27	21	35	21	27	21	29	-6	+8
その他	-0	3	-1	2	-4	1	2	-1	-3	-6	-3	-9	-8	-6
消去又は全社	-14	-11	-13	-19	-14	-6	-13	-19	-19	-13	-14	-19	+1	-5
合計	170	168	145	80	126	185	142	97	173	142	67	60	-36	-7

◆ 連結損益計算書 四半期推移

(億円)

	19年度				20年度				21年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	2,146	2,214	2,114	2,063	1,791	2,150	2,156	2,268	2,259	2,275	2,336	2,390
売上原価	1,470	1,534	1,461	1,438	1,194	1,484	1,522	1,614	1,550	1,587	1,699	1,714
売上総利益	677	680	653	624	597	666	634	653	709	688	638	676
販管費	507	512	509	544	471	481	492	556	536	546	571	616
営業利益	170	168	145	80	126	185	142	97	173	142	67	60
営業外損益	-1	-6	-1	-11	-1	-7	-15	11	12	-0	20	23
(内 金融収支)	-1	-5	-4	-4	-1	-3	-2	-2	-2	-5	-4	-5
(内 持分法投資損益)	4	7	2	8	2	12	5	7	15	14	14	12
経常利益	169	162	144	69	124	178	126	108	184	142	87	84
特別損益	-18	-23	6	-93	-14	-11	33	-451	-19	34	8	-78
税金等調整前四半期純利益	151	139	150	-24	110	167	160	-343	165	176	94	6
法人税等	40	37	47	21	48	57	44	-13	61	51	45	24
非支配株主に帰属する 四半期純利益	3	5	5	4	5	7	7	5	7	7	7	8
親会社株主に帰属する 四半期純利益	108	97	97	-49	57	103	108	-335	98	118	43	-27

◆ 連結貸借対照表 四半期推移

(億円)

	19年度				20年度				21年度			
	6月末	9月末	12月末	3月末	6月末	9月末	12月末	3月末	6月末	9月末	12月末	3月末
資産												
流動資産	5,116	5,255	5,280	5,053	5,026	5,131	5,074	5,346	5,389	5,517	5,537	5,720
固定資産	4,910	5,052	5,139	4,989	5,024	5,055	5,133	5,066	6,461	6,171	6,220	6,356
合計	10,026	10,307	10,419	10,042	10,049	10,185	10,207	10,411	11,850	11,688	11,757	12,076
負債・純資産												
負債	5,860	6,103	6,065	5,928	5,880	5,837	5,744	6,108	7,439	7,182	7,209	7,428
(内 有利子負債)	3,743	4,076	3,982	3,819	3,914	3,873	3,628	3,800	5,029	4,828	4,729	4,852
純資産	4,166	4,204	4,354	4,114	4,169	4,348	4,463	4,304	4,411	4,506	4,548	4,648
合計	10,026	10,307	10,419	10,042	10,049	10,185	10,207	10,411	11,850	11,688	11,757	12,076

◆ セグメント別経営指標 [前年度対比 及び 2020年度対比]

(億円)

	21年度 実績	22年度 見通し	差異	20年度 実績	20年度実績 との差異
EBITDA ^{*1}					
マテリアル	250	520	+270	315	+205
ヘルスケア	705	525	-180	437	+88
繊維・製品	121	150	+29	239	-89
IT	108	110	+2	113	-3
その他	1	5	+4	7	-2
消去又は全社	-55	-60	-5	-43	-17
合計	1,130	1,250	+120	1,068	+182
営業利益ROIC ^{*2}					
マテリアル	-2%	4%	+6%	0%	+4%
ヘルスケア	20% ^{*3}	13%	-7%	41%	-28%
繊維・製品	4%	6%	+2%	14%	-8%
IT	61%	58%	-3%	66%	-8%
合計	5.5%^{*3}	6%	+0%	8.6%	-3%

*1 「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

2 「営業利益 ÷ 期首・期末平均投下資本^{}」にて算出

(*投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金)

*3 期首の投下資本は糖尿病薬販売権等承継による増加を含めて算出

◆ 主要経営指標推移

	17年度 実績 ^{*6}	18年度 実績	19年度 実績	20年度 実績	21年度 実績	22年度 見通し
ROE ^{*1}	12.5%	11.2%	6.3%	-1.7%	5.5%	6%
営業利益ROIC ^{*2}	11.2%	9.3%	8.7%	8.6%	5.5% ^{*7}	6%
EBITDA ^{*3} (億円)	1,155	1,076	1,072	1,068	1,130	1,250
1株当たり当期純利益 (円)	231.3	232.4	131.6	-34.7	120.6	145.7
1株当たり配当金 (円)	60	70 [*]	60	50	55	55
*100周年記念配当 10円/株を含む						
総資産 (億円)	9,820	10,207	10,042	10,411	12,076	12,400
有利子負債 (億円)	3,442	3,692	3,819	3,800	4,852	4,800
D/Eレシオ ^{*4}	0.88	0.90	0.97	0.94	1.10	1.0
D/Eレシオ (資本性調整後) ^{*5}	-	-	-	-	0.97	0.9
自己資本比率	40.0%	40.2%	39.3%	39.0%	36.4%	37%

*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷期首・期末平均自己資本」にて算出

2 「営業利益÷期首・期末平均投下資本^{}」にて算出 (*投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金)

*3 「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

*4 「有利子負債÷自己資本」にて算出 (グロス表示)

*5 劣後債資本性調整後のD/Eレシオ (2021年7月21日 劣後債 600億円発行済)

*6 『『税効果会計に係る会計基準』の一部改正』(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を18年度から適用しており、17年度実績については当該会計基準等を遡って適用した後の数値を記載

*7 期首の投下資本は糖尿病薬販売権等承継による増加を含めて算出

◆ 主要医薬品 国内売上高実績推移

(億円)

品名	薬効	20年度					21年度				
		1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q	2Q	3Q	4Q	計
フェブリク®	高尿酸血症・痛風治療剤	87	89	96	83	356	96	97	106	89	388
ネシーナ®	2型糖尿病治療剤	-	-	-	-	-	36	33	35	27	131
イニシク®	2型糖尿病治療剤	-	-	-	-	-	21	20	21	17	79
ボナロン®*1	骨粗鬆症治療剤	21	21	23	18	83	20	20	21	17	78
ソマチュリン®*2	先端巨大症及び下垂体性巨人症、 膵・神経内分泌腫瘍治療剤	13	13	14	12	52	13	13	15	12	54
ベニロン®	重症感染症治療剤	14	12	14	10	50	12	12	13	9	46
リオベル®	2型糖尿病治療剤	-	-	-	-	-	12	10	11	8	41
ザファテック®	2型糖尿病治療剤	-	-	-	-	-	7	6	7	5	25
ムコソルバン®	去痰剤	6	5	7	5	22	5	5	7	5	22
ロコア®	経皮吸収型鎮痛消炎剤	5	6	5	5	21	5	5	6	4	20
ワンアルファ®	骨粗鬆症治療剤	3	3	3	2	10	2	3	4	2	11
ゼオマイン®	上下肢痙縮治療剤	-	-	0.1	0.3	0.4	0.5	2	4	4	10

*1 ボナロン®/Bonalon® はNV Organon(蘭)の登録商標です。

*2 ソマチュリン®/Somatuline® は Ipsen Pharma (仏)の登録商標です。

◆ 非財務情報 ESG外部評価

GPIFの5つのESG指数全ての構成銘柄に採用されています

FTSE Blossom
Japan2021 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)2021 CONSTITUENT MSCIジャパン
ESGセレクト・リーダーズ指数FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

(注) MSCIインデックスへの帝人株式会社の組み入れおよび帝人株式会社によるMSCIのロゴ、商標、サービスマークまたはインデックス名の使用は、MSCIまたはその関係会社による帝人株式会社へのスポンサーシップ・宣伝・販売促進を企図するものではありません。MSCIインデックスはMSCIの独占的財産であり、MSCIおよびMSCIインデックスの名称ならびにロゴは、MSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。

SRI（社会的責任投資）インデックスに組み入れられています

Member of
**Dow Jones
Sustainability Indices**
Powered by the S&P Global CSA

FTSE4Good



MSCI ESG格付評価において最上位の「AAA」を獲得しました

MSCI
ESG RATINGSCCC B BB BBB A AA **AAA**

日経SDGs経営調査で総合ランキング35位の高い評価を得ています

**NIKKEI
SDGs**
経営調査 2021 ★★★★★

- ・ 4分野全てにおいて「S以上」の高評価
- ・ 「ガバナンス」は全業界の中で偏差値70以上の上位10社に

ESGへの取り組みが優れている企業として、2つの国内プログラムに選定されています

「なでしこ」女性活躍推進

健康経営推進



TEIJIN

Human Chemistry, Human Solutions